阿	有工	業高等専門学校		制御情前入学	報工学 生)	平成25年度以 開講年度 平成26年度 (2014	年度)	
学	科到	達目標						
TVIE			NOW	W /L 75		学年別週当授業時数 1年 2年 3年 4年 5年	101/14	
科目分		授業科目	科目番号	単位種 別	単位数	前 後 前 後 前 後 前 後 前 後 前 後 1 2 3 4 1 2 3 </td <td>担当教員</td> <td>腹修上 の区分</td>	担当教員	腹修上 の区分
専門	必修	回路技術基礎	0035	履修単 位	2	2 2	福田 耕治	
専門	必修	マイクロコンピュータ	0036	履修単 位	1	1 1	福田 耕治	
専門	必修	組み込みマイコン実習	0037	履修単 位	3	3 3	福田 耕治	
専 門	選 択	ソフトウェア設計	0038	履修単 位	2	4	岡本 浩行	
専門	選 択	プログラミング演習	0039	履修単 位	2	2 2	吉田晋	
専門	選択	応用物理1	0040	履修単 位	2	2 2	松尾 俊	
専門	選 択	情報処理演習	0041	履修単 位	2	4	岩佐 健司	

阿南工業高等曹	門学校	開講年度	平成28年度 (2	2016年度)	授業科目	回路技術基礎	
科目基礎情報							
科目番号	0035			科目区分	専門 / 必	修	
授業形態	授業			単位の種別と単位数	数 履修単位	: 2	
開設学科	制御情報工学科(平成25年度以前)		度以前入学生)	対象学年	3		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材 指導教員の支持による。/指導教員の支持による。							
担当教員	担当教員 福田 耕治						
到達日標							

- 1. 研究テーマの背景や工学的および社会的意義が理解できる。 2. 研究テーマを推進するための計画や実験・解析方法などの検討が担当教員指導下で自主的に実施できる。 3. 研究で実施した実験・解析結果を英文概要付きの科学技術論文にまとめ、プレゼンテーションできる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1		担当教員の指導の下、研究テーマの背景や工学的意義を説明できる。	研究テーマの背景や工学的意義を 説明できない。
評価項目2	自主的に研究テーマを推進するための計画や実験・解析方法などの 検討できる。	担当教員の指導の下で、研究テーマを推進するための計画や実験・ 解析方法などの検討ができる。	担当教員の指導に従わず、研究テーマを推進できない。
評価項目3	自主的に研究結果を英文概要付き の論文にまとめ、ブレゼンテーションできる。	担当教員の指導の下で、研究結果 を英文概要付きの論文にまとめ、 プレゼンテーションできる。	研究で実施した実験・解析結果を 英文概要付きの科学技術論文にま とめることができる。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

	研究テーマを推進する過程において、4年生までに学んだ専門的知識を応用・活用して、与えられた課題や問題を解決するための実践力を身につけ、社会に貢献できる技術者としての素養を高めることを目標とする。
授業の進め方・方法	実験・実習
注意点	課題に対し学生自ら計画を十分に立て、自主的、継続的に取り組み、研究を遂行してもらいたい。

授業計画

汉未可世		调	授業内容	週ごとの到達目標
		旭	放未的台	
		1週	1. 研究の遂行	担当教員指導の下、自主的に研究背景の調査、実験、 解析等を行い、結果の検討、考察ができる。
		2週	1. 研究の遂行	担当教員指導の下、自主的に研究背景の調査、実験、 解析等を行い、結果の検討、考察ができる。
		3週	1. 研究の遂行	担当教員指導の下、自主的に研究背景の調査、実験、 解析等を行い、結果の検討、考察ができる。
	1stQ	4週	1. 研究の遂行	担当教員指導の下、自主的に研究背景の調査、実験、 解析等を行い、結果の検討、考察ができる。
	13(Q	5週	1. 研究の遂行	担当教員指導の下、自主的に研究背景の調査、実験、 解析等を行い、結果の検討、考察ができる。
		6週	1. 研究の遂行	担当教員指導の下、自主的に研究背景の調査、実験、 解析等を行い、結果の検討、考察ができる。
		7週	1. 研究の遂行	担当教員指導の下、自主的に研究背景の調査、実験、 解析等を行い、結果の検討、考察ができる。
前期		8週	1. 研究の遂行	担当教員指導の下、自主的に研究背景の調査、実験、 解析等を行い、結果の検討、考察ができる。
		9週	1. 研究の遂行	担当教員指導の下、自主的に研究背景の調査、実験、 解析等を行い、結果の検討、考察ができる。
		10週	1. 研究の遂行	担当教員指導の下、自主的に研究背景の調査、実験、 解析等を行い、結果の検討、考察ができる。
		11週	1. 研究の遂行	担当教員指導の下、自主的に研究背景の調査、実験、 解析等を行い、結果の検討、考察ができる。
	2ndQ	12週	1. 研究の遂行	担当教員指導の下、自主的に研究背景の調査、実験、 解析等を行い、結果の検討、考察ができる。
		13週	1. 研究の遂行	担当教員指導の下、自主的に研究背景の調査、実験、 解析等を行い、結果の検討、考察ができる。
		14週	1. 研究の遂行	担当教員指導の下、自主的に研究背景の調査、実験、 解析等を行い、結果の検討、考察ができる。
		15週	1. 研究の遂行	担当教員指導の下、自主的に研究背景の調査、実験、 解析等を行い、結果の検討、考察ができる。
		16週		
		1週	1. 研究の遂行	担当教員指導の下、自主的に研究背景の調査、実験、 解析等を行い、結果の検討、考察ができる。
		2週	1. 研究の遂行	担当教員指導の下、自主的に研究背景の調査、実験、 解析等を行い、結果の検討、考察ができる。
後期	3rdQ	3週	1. 研究の遂行	担当教員指導の下、自主的に研究背景の調査、実験、 解析等を行い、結果の検討、考察ができる。
		4週	1. 研究の遂行	担当教員指導の下、自主的に研究背景の調査、実験、 解析等を行い、結果の検討、考察ができる。
		5週	1. 研究の遂行	担当教員指導の下、自主的に研究背景の調査、実験、 解析等を行い、結果の検討、考察ができる。

6週 1. 研究の遂行 担当教員指導の下、自主的に研究背景の調査、実験、		1	т т								
1. 切れの強行 別析等を行い、結果の検討、考質ができる。 担当教具指導の下、自主的に用名質量の調査、実験、解析等を行い、結果の検討、考質ができる。 担当教具指導の下、自主的に用名質量の調査、実験、解析等を行い、結果の検討、考質ができる。 担当教具指導の下、自主的に用名質量の調査、実験、解析等を行い、結果の検討、考質ができる。 日外取り組入でいる研究 テーマや他の学生の対論会を定期的(週回回程度) 日初 日初 日初 日初 日初 日初 日初 日			6週	1. 研究の遂行							
1.			7週	1. 研究の遂行							
9週 2. セミナー発表 程度)に開催できる。また、自分取り組んでいる研究 テーマや他の学生の研究のテーマの背景を理解し、プレゼンテーションと討議ができる。 研究分野の近い他の学生との討論会を定期的(週ー回程度)に開催できる。また、自分取り組んでいる研究 テーマや他の学生の研究のテーマの背景を理解し、プレゼンテーションと討議ができる。 研究分野の近い他の学生の研究のテーマの背景を理解し、プレゼンテーションと討議ができる。 研究分野の近い他の学生との討論会を定期的(週ー回程度)に開催できる。また、自分取り組んでいる研究 テーマや他の学生の研究のテーマの背景を理解し、プレゼンテーションと討議ができる。 研究分野の近い他の学生との討論会を定期的(週ー回程度)に開催できる。また、自分取り組んでいる研究 デーマや他の学生の研究のテーマの背景を理解し、プレゼンテーションと討議ができる。 研究分野の近い他の学生との討論会を定期的(週ー回程度)に開催できる。また、自分取り組んでいる研究 デーマや他の学生の研究のテーマの背景を理解し、プレゼンテーションと討議ができる。 研究分野の近い他の学生との討論会を定期的(週ー回程度)に開催できる。また、自分取り組んでいる研究 デーマや他の学生の研究のテーマの背景を理解し、プレゼンテーションと討議ができる。 研究が野の近い他の学生との討論会を定期的(週ー回程度)に開催できる。また、自分取り組んでいる研究 テーマや他の学生の研究のテーマの背景を理解し、プレゼンテーションと討議ができる。 研究分野の近い他の学生との討論会を定期的(週ー回程度)に開催できる。また、自分取り組んでいる研究 テーマや他の学生の研究のテーマの背景を理解し、プレゼンテーションと対議ができる。 研究分野の近に他の学生との討論会を定期的(週ー回程度)に開催できる。また、自分取り組んでいる研究 テーマや他の学生の研究のテーマの背景を理解し、プレゼンテーションと討議ができる。 研究分野の近に他の学生との対論会を定期的(週ー回程度)に関係できる。また、自分取り組んでいる研究 「現実」に関係できる。また、自分取り組んでいる研究 「現実」に関係できる。また、自分取り組んでいる研究 「現実」に関係できる。また、自分取り組んでいる研究 「現実」に関係できる。また、自分取り組んでいる研究 「アーマや他の学生の研究のテーマの背景を理解し、プレゼンテーションと討議ができる。 研究分野の近に他の学生との対論会を定期的(週ー回程度)に開催できる。また、自分取り組んでいる研究 「現実」に関係できる。また、自分取り組んでいる研究 「現実」に関係できる。また、自分取りに関係できる。また、自分取りに関係できる。また、自分取りに関係を表します。 「現実」に関係できる。また、自分取りに関係できる。また、自分取りに関係できる。また、自分取りに関係を表します。 「現実」に関係できる。また、自分取りに関係できる。また、自分取りに関係を表します。 「現実」に対するといるでは関係できる。また。「現実」に対するといるでは関係できる。また。「現実」に対するといるでは、自分では関係を表します。 「現実」に対するといるでは、自分取りに対するといるでは、自分では、自分では、自分では、自分では、自分では、自分では、自分では、自分			8週	1. 研究の遂行							
10週 2. セミナー発表 程度) に開催できる。また、自分取り組んでいる研究 デーマや他の学生の研究のデーマの背景を理解し、ブレゼンテーションと討議ができる。 研究分野の近い他の学生との討論会を定期的(週一回程度)に開催できる。また、自分取り組んでいる研究 デーマや他の学生の研究のテーマの背景を理解し、ブレゼンテーションと討議ができる。 研究分野の近い他の学生との討論会を定期的(週一回程度)に開催できる。また、自分取り組んでいる研究 デーマや他の学生の研究のテーマの背景を理解し、ブレゼンテーションと討議ができる。 研究分野の近い他の学生との討論会を定期的(週一回程度)に開催できる。また、自分取り組んでいる研究 デーマや他の学生の研究のテーマの背景を理解し、ブレゼンテーションと討議ができる。 研究分野の近い他の学生との討論会を定期的(週一回程度)に開催できる。また、自分取り組んでいる研究 デーマや他の学生の研究のデーマの背景を理解し、ブレゼンテーションと討議ができる。 研究分野の近い他の学生との討論会を定期的(週一回程度)に開催できる。また、自分取り組んでいる研究 デーマや他の学生の研究のテーマの背景を理解し、ブレゼンテーションと対議ができる。 研究分野の近い他の学生との対論会を定期的(週一回程度)に開催できる。また、自分取り組んでいる研究 デーマや他の学生の研究のデーマの背景を理解し、ブレゼンテーションとは影響できる。まただし、この発表を基準が会における研究集			9週	2.セミナー発表			程度)に開催できる。また、自分取り組んでいる研究 テーマや他の学生の研究のテーマの背景を理解し、プ				
11週 2. セミナー発表 程度) 「に開催できる。また、自分取り組んでいる研究 テーマや他の学生の研究のテーマの背景を理解し、ブレゼンテーションと討議ができる。 研究分野の近い他の学生との討論会を定期的(週一回程度)に開催できる。また、自分取り組んでいる研究 テーマや他の学生の研究のテーマの背景を理解し、ブレゼンテーションと討議ができる。 研究分野の近い他の学生との討論会を定期的(週一回程度)に開催できる。また、自分取り組んでいる研究 テーマや他の学生の研究のテーマの背景を理解し、ブレゼンテーションと討議ができる。 研究分野の近い他の学生との討論会を定期的(週一回程度)に開催できる。また、自分取り組んでいる研究 テーマや他の学生の研究のテーマの背景を理解し、ブレゼンテーションと討議ができる。 発表会時点での研究成果と、研究を遂行する上での課題を梗概にまとめ、ブレゼンテーションにより説明できる。ただし、この発表を各権学協会における研究集会で校外発表することを推奨する。 15週 4. 卒業研究発表会 研究成果を学会論文集準拠の卒業研究論文にまとめると共に、オーラルまたはボスター発表により説明できる。 16週 モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標 一旦 「日週 「日間 「日間 「日間 「日間 「日間 「日間 「日間 「日間 「日間 「日間			10週	2.セミナー発表			程度) に開催できる。また、自分取り組んでいる研 テーマや他の学生の研究のテーマの背景を理解し、				
4thQ 12週 2. セミナー発表 程度)に開催できる。また、自分取り組んでいる研究 テーマや他の学生の研究のテーマの背景を理解し、プレゼンテーションと討議ができる。			11週	2.セミナー発表			程度)に開催できるテーマや他の学生の	る。また、自分取 の研究のテーマの	り組んでいる研究		
13週 2. セミナー発表		4thQ	12週	2.セミナー発表			程度)に開催できる。また、自分取り組んでいる研究 テーマや他の学生の研究のテーマの背景を理解し、プ				
14週 3. 中間発表 題を梗概にまとめ、プレゼンテーションにより説明できる。ただし、この発表を各種学協会における研究集会で校外発表することを推奨する。			13週	2.セミナー発表			程度) に開催できる。また、自分取り組んでいる研 テーマや他の学生の研究のテーマの背景を理解し、				
15週 4. 卒業研究発表会 と共に、オーラルまたはポスター発表により説明できる。 16週 モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標 分類 分野 学習内容の到達目標 到達レベル 授業週 評価割合 試験 発表 相互評価 態度 ポートフォリオ その他 合計 総合評価割合 0 50 0 0 0 0 0 0 0			14週	3. 中間発表			題を梗概にまとめ、プレゼンテーションにより説明で きる。ただし、この発表を各種学協会における研究集				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標 分類 分野 学習内容 学習内容の到達目標 到達レベル 授業週 評価割合 試験 発表 相互評価 態度 ポートフォリオ その他 合計 総合評価割合 0 0 0 0 50 100 基礎的能力 0 0 0 0 0 0 専門的能力 0 40 0 0 0 30 70			15週	4 . 卒業研究発表会	÷		と共に、オーラル	文集準拠の卒業研 またはポスター発	究論文にまとめる 表により説明でき		
分類 分野 学習内容 学習内容の到達目標 到達レベル 授業週 評価割合 発表 相互評価 態度 ポートフォリオ その他 合計 総合評価割合 0 50 0 0 0 50 100 基礎的能力 0 0 0 0 0 0 専門的能力 0 40 0 0 0 30 70			16週								
評価割合 試験 発表 相互評価 態度 ポートフォリオ その他 合計 総合評価割合 0 50 0 0 50 100 基礎的能力 0 0 0 0 0 0 専門的能力 0 40 0 0 0 30 70	モデルニ	<u> アカリ</u> キ	-ュラム <u>の</u> :	学習内容と到達	目標						
試験 発表 相互評価 態度 ポートフォリオ その他 合計 総合評価割合 0 50 0 0 50 100 基礎的能力 0 0 0 0 0 0 専門的能力 0 40 0 0 0 30 70	分類		分野	学習内容	学習内容の到達目	標		到達レ	ベル 授業週		
試験 発表 相互評価 態度 ポートフォリオ その他 合計 総合評価割合 0 50 0 0 50 100 基礎的能力 0 0 0 0 0 0 専門的能力 0 40 0 0 0 30 70	評価割合	 ì									
基礎的能力 0 0 0 0 0 0 専門的能力 0 40 0 0 0 30 70		試	· 険	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計		
専門的能力 0 40 0 0 0 30 70	総合評価害	合 0		50	0	0	0	50	100		
	基礎的能力	0		0	0	0	0	0	0		
分野横断的能力 0 0 0 20 30	専門的能力	0		40	0	0	0	30	70		
	分野横断的	能力 0		10	0	0	0	20	30		

阿南	工業高等	専門学校	開講年度 平成28年度 (2	2016年度)	授	業科目	マイクロコンピュータ		
科目基础				,					
科目番号		0036		科目区分		専門 / 必修			
授業形態		授業		単位の種別と単位	数	履修単位:	1		
開設学科		制御情幸	B工学科(平成25年度以前入学生)	対象学年		3			
開設期		通年		週時間数		1			
教科書/教	材		っすい電子回路 (コロナ社)/備考欄参照						
担当教員		福田耕	治						
到達目標									
2. トラ:	ンジスタを見	用いた様々な	D基本的なディジタル回路が設計できる は増幅回路の構成および動作を説明でき D特徴が説明できる。	。 : る。					
ルーブリ	ノック						,		
			理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レク			未到達レベルの目安		
評価項目:	1		フリップフロップを用いた応用回 路を設計することができる。	カウンタ回路や5 本的な回路を設計 る。	/フト[するこ	回路など基 ことができ	カウンタ回路やシフト回路など基本的な回路を設計することができない。		
評価項目2	2		トランジスタを用いた各種増幅回 路の詳細な動作を解析することが できる。	トランジスタを用路の詳細な動作をできる。	引いたる と説明で	A種増幅回 することが	トランジスタを用いた各種増幅回路の詳細な動作を説明することができない。		
評価項目	3		オペアンプを用いた加減算回路や 微積分回路等の応用回路を設計す ることができる。	オペアンプの動作 いて説明でき、覧 設計することがで	F原理の 第単な》 できる。	と特徴につ 寅算回路を	オペアンプの動作原理と特徴につ いて説明できない。		
学科の	到達目標項	頁目との時					•		
教育方法		<u> </u>	5 M						
	<u> </u>	電子同路	B設計に必要となる基本的なディジタル		各につ		理を学び、回路設計の基礎的技術		
概要		を理解す	することを目標とする。						
	め方・方法	る。また	ヲル回路の代表的素子あるフリップフロ こ、アナログ回路の代表的素子であるオ では、理解の助けとなるよう演習等を実	ペアンプを用いた名	S種回	路の動作にて	いて講義する。		
注意点		回路技術	が基礎(3年)、回路技術(4年)の知識習得 で表現である。	を前提としています。	すので	履修前に必	ができた。また、本講義では、		
授業計画	画								
		週	授業内容		週ごと	の到達目標			
		1週	1. ディジタル回路の設計		計手順	を説明する。	'ロップを用いたカウンタ回路等の設 ことができる。		
		2週	1. ディジタル回路の設計		計手順	を説明する。	ロップを用いたカウンタ回路等の設 ことができる。		
		3週	1. ディジタル回路の設計			することが	やカルノー図を用いて順序論理回路できる。 やカルノー図を用いて順序論理回路		
	1stQ	4週	1. ディジタル回路の設計		ナジュニュ	することが	ホキフ		
		5週	2. トランジスタ増幅回路		2-(1)	負帰還幅回	路について説明することができる。		
		6週	2. トランジスタ増幅回路		2-(1) 負帰還幅回路について説明することがで				
		7週	2. トランジスタ増幅回路		2-(2)	差動還増幅	回路について説明することができる		
		8週	2. トランジスタ増幅回路		2-(2) 差動還増幅回路について説明することがで				
前期		9週	2. トランジスタ増幅回路		。 2-(3) 演算増幅器について説明することができ				
			中間試験(1時間)		3-(1)		の動作について説明することができ		
		10週	3. オペアンプ						
		11週	3. オペアンプ		る゜				
	2ndQ	12週	3. オペアンプ			2) オペアンプを用いた演算回路について説明ができる。 2) オペアンプを用いた演算回路について説明			
		13週	3. オペアンプ		ことが	できる。	を用いた演算回路について説明する ************************************		
		14週	3. オペアンプ 期末試験		ができ				
		15週	答案返却						
		16週							
		1週							
		2週	<u> </u>						
		3週							
∕∕v. ₩□	3rdQ	4週							
後期		5週		-					
		6週							
		7週 8週	+						
	4thO								
	4thQ	9週							

	10週						
	11週						
	12週						
	13週						
	14週						
	15週						
	16週						
モデルコアカ	」リキュラムの ⁵	学習内容と到達	目標				
分類	分野	学習内容 :	学習内容の到達目標	五 元		到達レ	ベル 授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	70	0	0	0	30	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

科目番号		0037			科目区分		専門 / 必修		
受業形態		授業			単位の種別と	単位数	履修単位: 3		
開設学科				5年度以前入学生)	対象学年		3		
開設期		通年			週時間数		3		
教科書/教	材				1				
旦当教員		福田 耕治							
到達目標	<u> </u>								
レーブリ									
<u>ν</u> – <i>γ</i> ·	リック		田相的+>和	達レベルの目安	標準的な到達	LATIO		未到達レベルの	D 日空
 平価項目1			生活的な到	重レインルの日女	保保的は到達	D/\JV03	日女	木到達レバル	り日女
<u> </u>									
<u>+価項目2</u> 平価項目3									
		5ロレの門/							
		目との関係	<u> </u>						
教育方法	等	1							
既要									
	方・方法								
主意点									
受業計画	1								
		+	授業内容			週ごと	との到達目標		
		1週							
		2週							
		3週							
	1stQ	4週							
	1300	5週							
		6週							
		7週							
前期		8週							
13741		9週							
		10週							
		11週							
	2ndQ	12週							
	21140	13週							
		14週							
		15週							
		16週							
		1週							
		2週							
		3週							
	3rdQ	4週							
		5週							
		6週							
		7週							
 後期		8週							
		9週							
		10週							
		11週							
	4thQ	12週							
		13週							
		14週							
		15週							
	<u> </u>	16週							
]アカリコ		学習内容と発					1	T
対類		分野	学習内容	学習内容の到達	目標			到達	レベル 授業週
平価割合									
	試		発表	相互評価	態度	ポー	トフォリオ	その他	合計
						0		0	
総合評価害	合 0		0	0	0	U		U	0
総合評価害 基礎的能力			0	0	0	0		0	0

阿南工業高等専門学		等専門学校	開講年度	更 平成28年度	(2016年度)	授業科目	ソフトウェ	ア設計	
科目基礎					-		•		
科目番号		0038			科目区分	専門 / 選			
授業形態		授業			単位の種別と単位	z数 履修単位	履修単位: 2		
開設学科		制御情幹		年度以前入学生)	対象学年	3			
開設期		後期			週時間数	4			
教科書/教材			•						
担当教員 岡本 浩行									
到達目標	Ę								
ルーブリ	リック								
			理想的な到達	レベルの目安	標準的な到達レベ	いの目安	未到達レベル	の目安	
評価項目1									
評価項目2									
評価項目3									
学科の到	達目標	項目との関	月 係						
教育方法	等								
概要									
授業の進め	方・方法								
注意点									
授業計画	Į.		_						
		週	授業内容		j	週ごとの到達目標	票		
		1週							
	3rdQ	2週							
		3週							
		4週							
	3.49	5週							
		6週							
		7週							
後期		8週							
		9週							
		10週							
		11週							
	4thQ	12週							
		13週 14週							
		15週							
		16週							
エデリー	ロフカリ	_)学習内容と到						
<u>モナル</u> 分類	17. 11.17	<u>キュラムの</u> 分野	<u> </u>	<u>建日保</u> 学習内容の到達			되	達レベル 授業週	
評価割合		ハ±j′	ナ白ry合	ナロバ谷の判廷	四1本		[±1].	圧レ′ VV 3又未四	
		 t験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割			<u> </u>		0	0	0 0	0	
基礎的能力			0	0	0	0	0	0	
専門的能力			0	0	0	0	0	0	
分野横断的			0	0	0	0	0	0	
ノノ ま」「供四口、	ח רימאיי 🚺		Ισ	Įυ	10	Io	Į U	ĮΨ	

科目基礎 科目番号	CIITIA	0039			科目区分		専門/選択	<u> </u>	
受業形態		授業			単位の種別と単	単位数	履修単位: 2		
開設学科				5年度以前入学生)	対象学年		3	_	
開設期		通年		- 1 2 7 1137 (3 =)	週時間数		2		
教科書/教		<u> </u>			, — 31–32×				
旦当教員		吉田晋							
	<u> </u>								
レーブリ									
<u>ν</u> – <i>Σ</i> :	190		I田相位+>四	達レベルの目安	標準的な到達し	· • · · · · · · · · · ·		土利は、ベル	<u> </u>
平価項目1			理想的な到	重レインルの日女	- 保华的な到廷レ	//\JV0J	日女	未到達レベル	の日女
平価項目2									
平価項目3									
		五口 レの問	IT.					1	
		頁目との関	1糸						
教育方法	5等								
既要									
	か方・方法								
注意点									
受業計画	<u> </u>								
			授業内容			週ごと	との到達目標		
		1週							
		2週							
		3週							
	1stQ	4週							
	IsiQ	5週							
		6週							
		7週							
前期		8週							
נאלנינ		9週							
		10週							
		11週							
	2ndQ	12週							
	Znaq	13週							
		14週							
		15週							
		16週							
		1週							
		2週							
		3週							
	3rdQ	4週							
	3.30	5週							
		6週							
		7週				-			
 後期		8週				-			
		9週				+			
		10週							
		11週							
	4thQ	12週							
		13週							
		14週				+			
		15週				+			
"	<u> </u>	16週		-1)-4					
	1アカリ=		学習内容と						1
分類		分野	学習内容	学習内容の到達	目標			到	達レベル 授業週
平価割合	<u> </u>								
	試	験	発表	相互評価	態度	ポー	・トフォリオ	その他	合計
			0	0	0	0		0	0
総合評価書	引合 0								
総合評価書 基礎的能力			0	0	0	0		0	0